

イチから学んで体験する

奈良時代の塑像ができるまで

奈良時代には、大陸からの影響により塑像の制作がさかに行われました。奈良県内にはその傑作が集中して伝えられています。では、奈良時代の塑像はどのようにつくられていたのでしょうか？

仏像制作の歴史や技法・構造を学ぶとともに、奈良時代の古典的な技法を用いて塑像を制作するワークショップを開催します。自分だけの塑像づくりを通して、古代の仏師に思いを馳せてみませんか？



開催日程（全6回）

- 第1回 令和5年10月29日（日）14:00～15:30 【講義編】 講義「仏像を造った人びとの歴史」
- 第2回 12月9日（土）13:00～17:00 【実践編①】 レクチャー、制作
- 第3回 12月23日（土）13:00～16:00 【実践編②】 制作
- 第4回 令和6年1月13日（土）13:00～16:00 【実践編③】 制作
- 第5回 1月20日（土）13:00～16:00 【実践編④】 制作
- 第6回 1月21日（日）13:00～16:00 【実践編⑤】 仕上げ、総評

会場：なら歴史芸術文化村 芸術文化体験棟3階 セミナールームA・B

定員：15名（応募者多数の場合、抽選）

対象：中学生以上、全6回参加可能な方、完成した作品をお持ち帰りいただける方

講師：【講義編】奈良県学芸政策顧問／京都大学名誉教授 根立研介氏

【実践編】東京藝術大学大学院保存修復彫刻研究室 岡田靖氏（准教授）

重松優志氏（2020年博士課程修了）、山田亜紀氏（教育研究助手）

参加費：5,000円（材料費として）

主催：なら歴史芸術文化村

講師紹介

根立研介氏 / 1956年生まれ。文化庁文化財調査官、京都大学大学院文学研究科教授などを経て現職。専門は日本彫刻史。特に仏師研究や肖像彫刻研究などに成果をあげる。

東京藝術大学大学院保存修復彫刻研究室 / 1964年に東京藝術大学大学院美術研究科に設立された保存修復技術講座を前身とし、1995年に文化財保存学専攻に改組。設立以来、仏像・神像を中心に、近代彫刻、キリスト教彫刻、考古遺物などの国内外の彫刻文化財を対象とした文化財の技法材料や保存修復に関する研究を行っている。

参加申し込みはなら歴史芸術文化村 HP にて受付けます。

申込〆切：10月21日（土）23:59

申込はこちら→

